

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	✓

活動団体名：余市町観光地域づくり協議会

活動地域：余市町

活動におけるテーマ

『サステイナブルツーリズムによる地域SDGsの推進』

活動団体および活動地域の紹介

特非) 北海道エコビレッジ
推進プロジェクト



研修の企画・運営・コーディネート

余市観光地域づくり
協議会

余市観光協会



全体統括・事務

余市町役場



各種情報提供・研修講師
施設利用等

余市町漁業協同組合



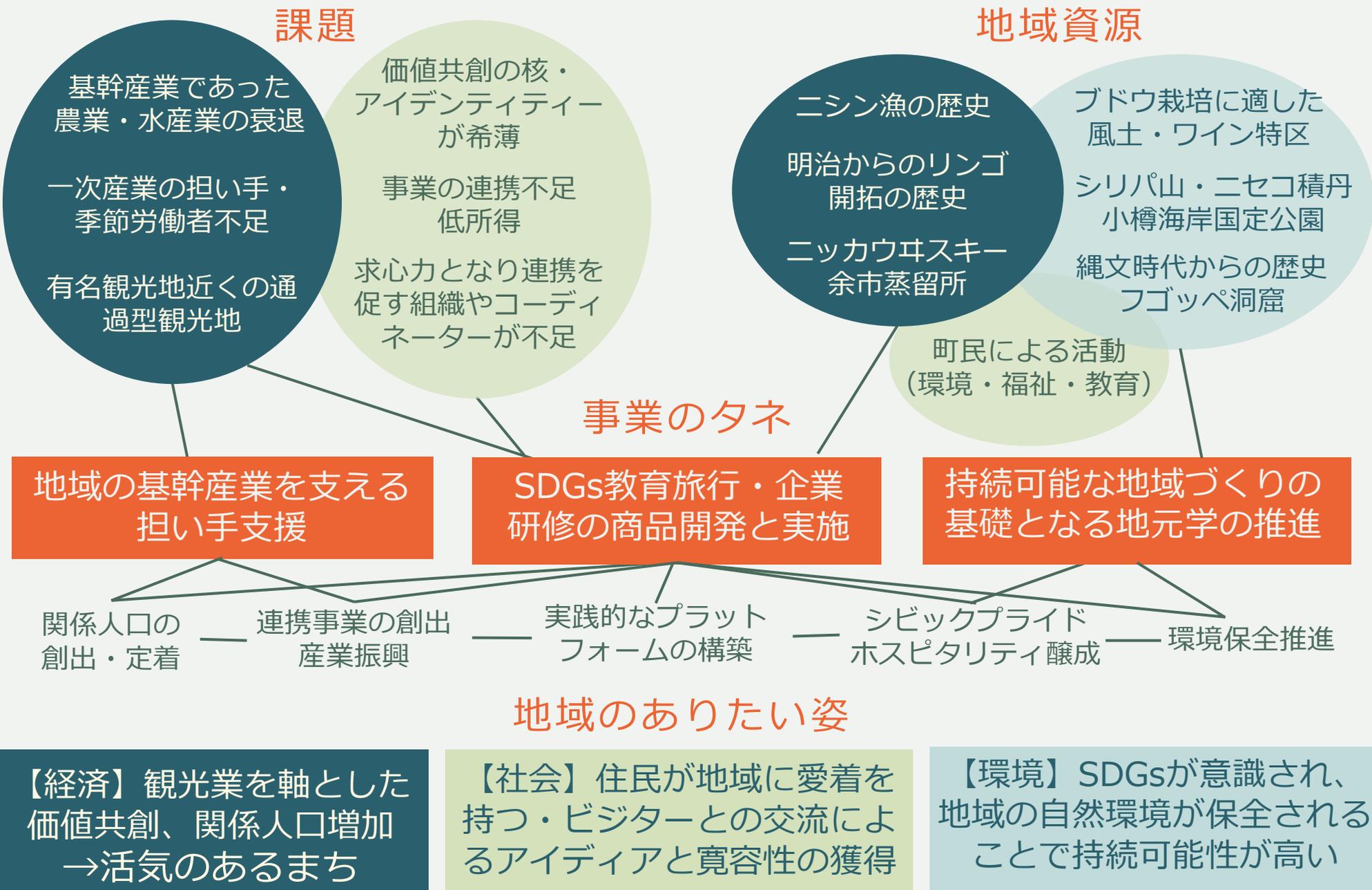
各種情報提供・研修講師等

JAよいち



各種情報提供・研修講師等

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



地域のありたい未来実現のための これまでの歩み

5/24-25
横須賀高校



9/12
PLT講習会



11/15-16
ブロック
共有会



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施した こと	プログラム 開発 (森プロ)	横須賀 高校 受入	プログラム 開発 (全体・ ロジ)	開明高校 受入	研修 受入	会	小田原 高校 受入	意見 交換会 & 北海道 ブロック 中間 共有会	プログラム 開発 (全体)	SH ヒアリング	プログラム 開発 (森プロ)	
			フットパス			給食 勉強会	フットパス		マンダラ 更新		フットパス	ファシリ テーション 講座

7/1-2
大阪開明高校



10/6
小田原高校



地域のありたい未来実現のための これまでの歩み

■ 大規模なSDGs教育研修の受入

一つの地域で受け入れ可能な人数に限りがあるため、他地域と連携・分散した形での受け入れ検討や複雑化したロジスティクスに関わる作業等で異業種（旅行業など）との連携による役割分担を試みた。

その結果、異業種との連携は、役割分担の線引きが難しいこと、また他地域との連携については、自治体・業種・セクターを横断した連携を進めるためには、一つの自治体内のステークホルダーを基盤とする協議会を超えた、より広範なステークホルダーを含む実施主体構築の必要性を考えるきっかけとなった。



地域のありたい未来実現のための これまでの歩み

■ 地元学の取り組み

初年度の地域意見交換会で出てきた声を受け、2年目から本格的に地元学の取り組みを実施。地元住民が地域の価値を再発見し、外部に発信していくことをねらいとし、ニシンやリンゴなどの地域食材を学ぶイベントや、自然・歴史をたどるフットパスを試行的に実践した。

研修・イベントで扱うテーマが同じであっても地域外の人に向けた場合と地元の人を対象とした場合では、説明の仕方や切り口を変える必要があるという気づきを得られた。

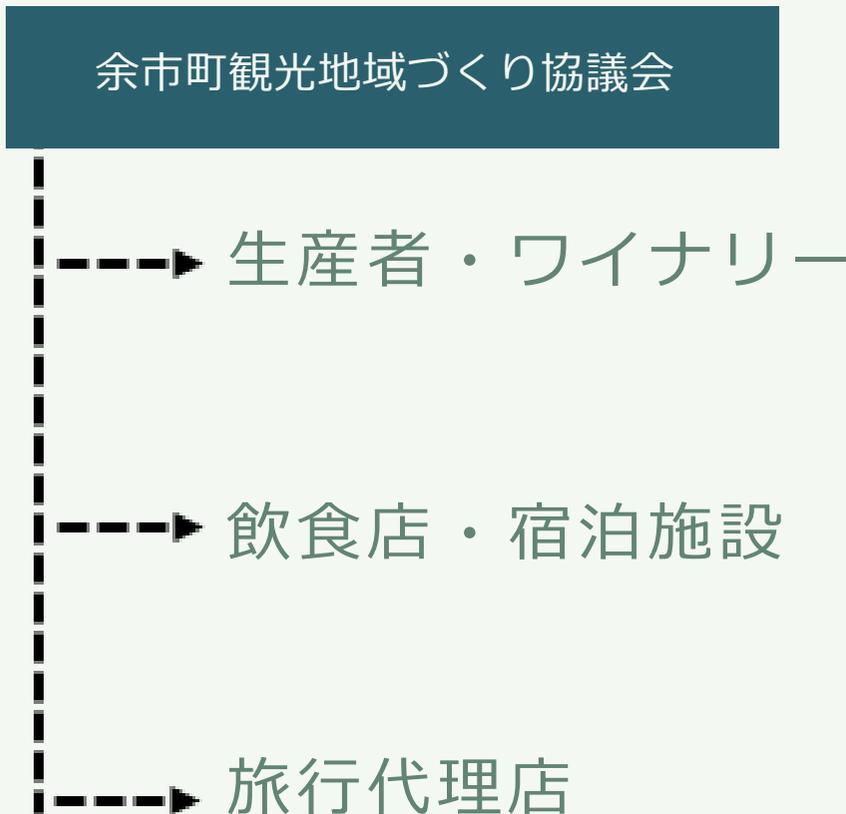


現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

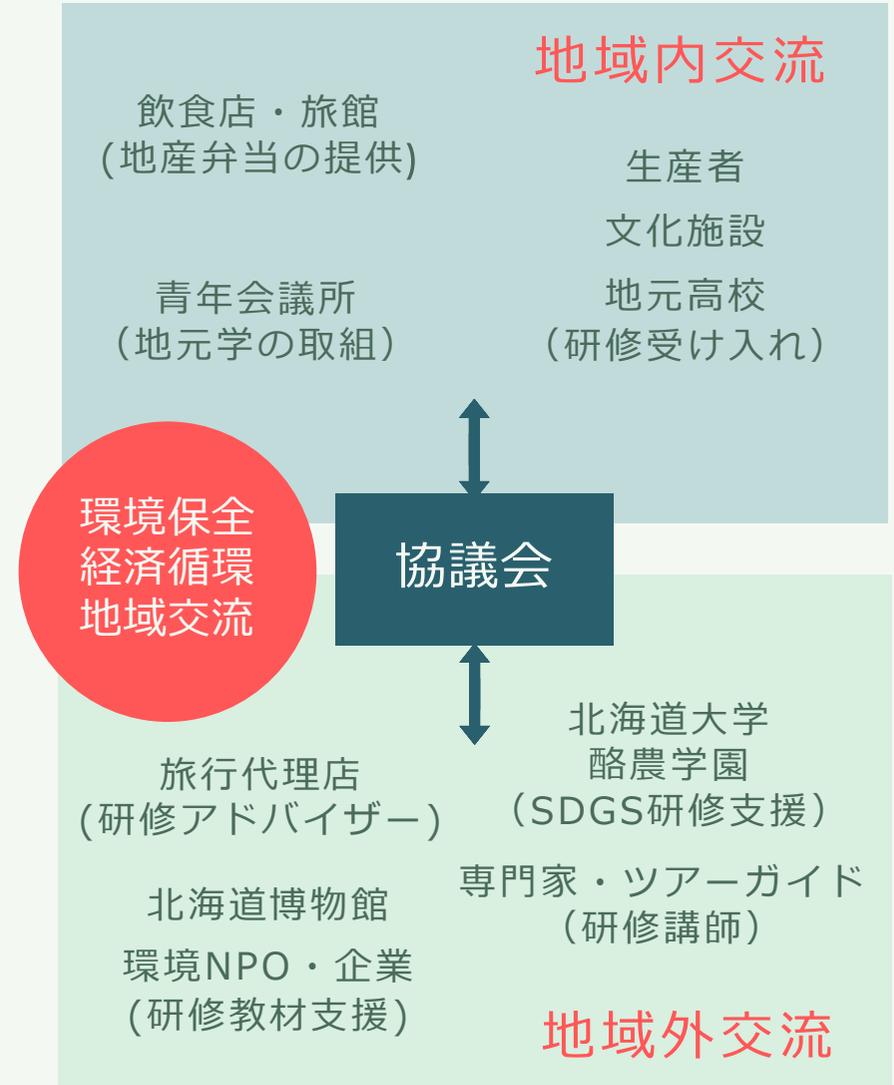
事業実施前



事業実施後



単発な連携で、
各分野のつながりが薄い



取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

取組を通して の成果

- 研修受け入れ体制の構築
地域内外の協力事業者ネットワークの広がり
- 異業種・人材との連携
兼業、プロボノ等を活用した資料及び教材、プログラムの開発
- 新たなプログラムの開発
森をフィールドとしたプログラムの検討と実施、ガイド/インタープリターの養成
- 地元学の取組スタート
フットパス・学校給食を考える会

取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

新たに見えてきた課題

地域人材の 活用

大規模SDGs研修の受入のためには、地域の人材を活用し、かつ飲食や観光など異業種が連携した受け入れ体制をつくる必要がある。

地元学の 財源確保

地元学の取組を継続的に実施していくための財源確保（役場、青年会議所、その他地域団体との連携）

一次産業の 活性化

労働需要のマッチングの仕組みづくりや求人情報・住宅情報の収集と情報提供

活動における今後の展望（チャレンジしたいこと）

■ SDGs教育研修のブラッシュアップ・新たなプログラム開発

多様な参加者を受け入れられる体制を作るため、学生のみならず、社会人・企業を対象としたSDGs研修や、天候や季節問わず実施できる屋内プログラム、地域をより広域に活用したロゲイニングなどの新たな研修プログラムを開発する

■ 地元学の勉強会開催と地元ガイド・インタープリターの養成

地元学の取組を通じて、地域の人々が自らの地域の魅力や資源を知ることができ、主体的に地域の魅力を伝え・発信することのできる人材（SDGs研修のガイド/インタープリターを担う人材）を養成していく

■ 地域の交流の場づくりによる地域内外のネットワーク強化

地域内外の様々な人が集い・交流できる場を作ることで、町づくりの担い手となる人材のネットワークづくりや住居・仕事などの地域の情報提供を行うことで、生活環境の向上と関係人口・移住者の定着支援を行う。空き家や町内会館などを活用したシェアオフィスや季節のマルシェなど。